

Internet Week 2013

1

S6

サイバー犯罪の動向と対策、インターネットのセキュリティと通信の秘密

2013年11月29日

日本インターネットプロバイダー協会

木村 孝

サイバー犯罪の傾向と対策

警察庁 生活安全局 情報技術犯罪対策課 間仁田 裕美 課長補佐

今年10月までのネットバンキング不正送金は被害は件数で昨年1年間の12倍、
金額で16倍！

766件、7.6億円（平均100万円）

単なるメールによるフィッシングではなく、Webサイトで感染するマルウェアを利用するのが特徴（マルウェア感染者は実は上記の数十倍？）

マルウェア配布サイトは「危ない」ところだけではない。のっとりにより、「普通の」
サイト（例：公共施設のサイトなど）に埋め込まれていることもある。

一連の遠隔操作ウイルス事案を受けての、サイバー犯罪対処能力強化に向けての緊急プログラム

2) 国際犯罪捜査と通信アプリ

大倉 健嗣 弁護士

「通信の秘密」って、キャリアやISPの問題だけではない。アプリの通信も同様。

電気通信事業者として、捜査機関からの照会には、裁判所の令状が必要。

国際犯罪捜査共助は、条約締結国、国交樹立国などの種別に応じ、国際的枠組みで対応。

現在は薬物、銃器、組織的殺人、入管に関連する犯罪に限られている通信傍受法の改正の動向(窃盗・強盗・詐欺・恐喝、殺人など)が懸念される。

パネルディスカッション: インターネット上の攻撃と「通信の秘密」

- コーディネーター 水越 一郎(NTT東日本)
- パネリスト 齋藤 衛(IIJ) 湯口 高司(NTTコム) 松隈 純(ソフトバンクBB)

11月から始まったACTIVEでは、2週間ちょっとで5千件以上のマルウェア感染サイトを警告(今現時点で取り組み開始したのは、ISP2社と1ツールバー)

ブロードバンドルーターの脆弱性問題。不正侵入、情報漏えい、DNS AMP攻撃の原因。ファームウェアのアップデートとPPPoEパスワードの変更を

今年3月に欧州では発生した「インターネット崩壊の危機」といわれたDDoS攻撃は300Gbps。日本でも数十Gbps程度のは普通。共同対処、情報共有必要

これらに共通する課題に「通信の秘密」の問題が存在

最後に

総務省「電気通信事業におけるサイバー攻撃への適正な対処の在り方に関する研究会」の開催 (11/27発表)

巧妙化・複雑化するサイバー攻撃に対して、安心・安全な情報通信ネットワークを確保するべく、電気通信事業者が通信の秘密等に配慮しつつ、新たな対策や取組を講じていくことが可能になるよう、電気通信事業におけるサイバー攻撃への適正な在り方について検討を行う

家庭用ブロードバンドルーターのファームウェアをアップデートしましょう。

詳しくは「テコムアイザック」のホームページをご覧ください。